

高知県

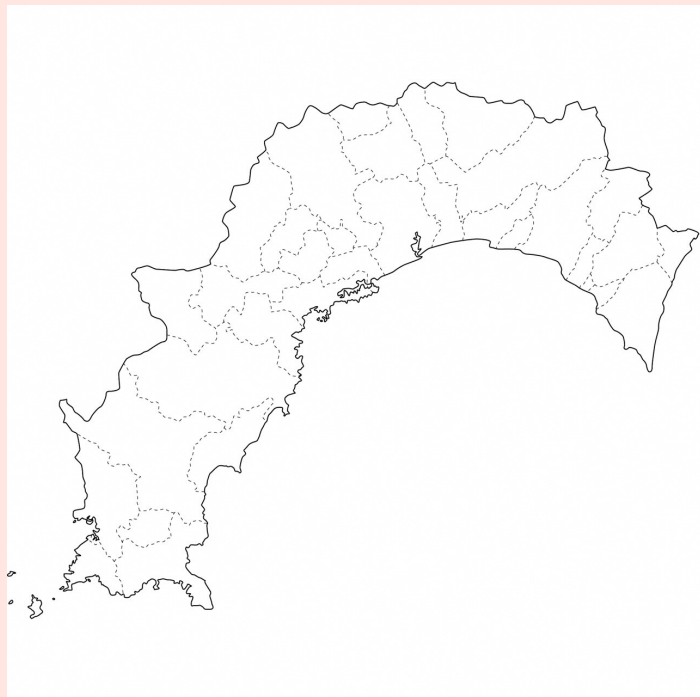
高知県における精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組み

高知県では・・・

県域、障害保健福祉圏域ごとに保健・医療・福祉関係者による協議の場を設置し、入退院の状況や地域資源を検証し、地域の課題を解決していくことで、精神障害者を地域全体で支える仕組みの構築の促進に取り組みます。

1 県又は政令市の基礎情報

高知県



取組内容

【精神障害者の地域移行・地域定着に関する取り組み】

1. ピアサポーター養成研修
2. 地域移行・地域定着支援関係者研修の実施
3. アウトリーチ推進事業の実施

基本情報（都道府県等情報）

障害保健福祉圏域数（R3年5月時点）	5	か所
市町村数（R3年5月時点）	34	市町村
人口（R3年5月時点）	684,754	人
精神科病院の数（R2年6月時点）	24	病院
精神科病床数（R2年6月時点）	3,563	床
入院精神障害者数 （R2年6月時点）	合計	2,963 人
	3か月未満（％：構成割合）	601 人 20.3 ％
	3か月以上1年未満 （％：構成割合）	571 人 19.3 ％
	1年以上（％：構成割合）	1,791 人 60.4 ％
	うち65歳未満	870 人
	うち65歳以上	2,093 人
退院率（H29年6月時点）	入院後3か月時点	64.0 ％
	入院後6か月時点	83.0 ％
	入院後1年時点	91.0 ％
相談支援事業所数 （R3年5月時点）	基幹相談支援センター数	4 か所
	一般相談支援事業所数	17 か所
	特定相談支援事業所数	89 か所
保健所数（R3年5月時点）	6	か所
（自立支援）協議会の開催頻度（R2年度）	（自立支援）協議会の開催頻度	2 回/年
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	有・無
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況（R3年3月時点）	都道府県	有・無 1 か所
	障害保健福祉圏域	有・無 0 / 5 か所/障害圏域数
	市町村	有・無 19 / 34 か所/市町村数

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

・高知県では、精神障害者が地域で自立した社会生活及び日常生活が送られるよう、精神科医療機関や障害福祉サービス事業所等、地域の関係者と連携した支援を促進するため 地域移行・地域生活支援事業として、次の3事業の実施を実施します。

1. ピアサポーター養成研修事業

ピアサポーターを養成し、地域移行・地域生活における相談支援体制を充実。

2. 指定相談支援の報酬加算研修事業

相談支援事業所等の支援者の育成及び指定一般相談支援事業者の増加。

3. アウトリーチ推進事業

精神障害者が住み慣れた街で暮らし続けられるよう、地域生活を支援する体制を整備。

3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

○H16～H23

精神障害者退院促進支援事業(精神障害者地域移行支援特別対策事業の実施)

○H23～H25

精神障害者アウトリーチ推進事業(精神科病院1カ所、地域活動支援センター1カ所)

○H24

地域移行・地域定着支援研修会の実施

○H26～

地域移行・地域生活支援事業(ピアサポーターの養成)

○H27～

圏域での広報・啓発活動

○R1～

指定相談支援の報酬加算研修事業

○R3～

精神障害者アウトリーチ推進事業(高幡圏域)

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に資する取組の成果・効果

＜令和2年度までの成果・効果＞

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (R2年度当初)	実績値 (R2年度末)	具体的な成果・効果
①ピアサポーターの育成(啓発事業の実施)	1回	1回 11名	ピアサポーター養成に向けた啓発事業として、交流会を実施。 当事者11名が参加。
②指定相談支援の報酬加算研修の実施	1回	1回 19事業所	指定相談支援の報酬加算研修事業を実施し、19の事業所が参加

5 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた現時点における強みと課題

【特徴(強み)】

関係機関が連携して地域移行に取り組んでいる圏域、及び市がある

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築のための関係機関の役割が不明確であり、システム作りが十分にできていない。	保健・医療・福祉関係者による圏域ごとの協議の場を設置する。	行政	協議の場の設置、連絡調整、システム作り
		医療	協議の場への参加(事例提供等)
		福祉	協議の場への参加(事例提供等)
		その他関係機関・住民等	協議の場への参加(事例提供等)
地域移行支援、地域定着支援の実績が少ない。	アウトリーチ推進事業を実施する高幡圏域をモデル事業として、成功事例を作り、その結果を踏まえて、取り組みを他の圏域へ広げていく。	行政	事業実施に向けた調整、関係機関への協力要請
		医療	事業への参加、協力
		福祉	事業への参加、協力
		その他関係機関・住民等	事業への参加、協力

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和3年度末)	見込んでいる成果・効果
①圏域の協議の場の設置	0	5	顔の見える関係づくりの推進
②アウトリーチ推進事業の実績(人数)	0	5	成功事例の蓄積及び多圏域への事業展開。

6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の取組スケジュール

時期(月)	実施する項目	実施する内容
通年	圏域ごとの協議の場の設置	協議の場の設置にけた関係機関への働き掛け及び連絡調整
R3年6月～	アウトリーチ推進事業	R3年度は高幡圏域において、多職種(精神科医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士等)による訪問支援により、医療・保健・福祉サービスを包括的に提供し、入院という形にとらわれずに住み慣れた地域で暮らし続けられる事を目的にアウトリーチ推進事業を実施。令和5年度までには全圏域での実施を目標。
R4年2月頃	ピアサポーター養成研修を実施	ピアサポーター養成のための研修会の実施。
R4年2月頃	指定相談支援の報酬加算研修の実施	相談支援事業所等の支援者の育成及び指定一般相談支援事業者の増加のための研修会の実施。

モデル圏域から自治体全体への展開に向けた方針

自治体全体への展開に向けた方向性

高幡圏域において、多職種（精神科医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士等）による訪問支援により、医療・保健・福祉サービスを包括的に提供し、入院という形にとらわれずに住み慣れた地域で暮らし続けられる事を目的にアウトリーチ推進事業を実施。令和5年度までには全圏域での実施を目標。

<自治体全体への展開に向けた具体的な取組方針>

1年目（令和3年度）

高幡圏域において、多職種（精神科医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士等）による訪問支援により、医療・保健・福祉サービスを包括的に提供し、入院という形にとらわれずに住み慣れた地域で暮らし続けられる事を目的にアウトリーチ推進事業を実施。

2年目（令和4年度）

高幡圏域での実施事例を参考に2圏域を加えた計3圏域でアウトリーチ推進事業を実施。

3年目（令和5年度）

県下全圏域（5圏域）でアウトリーチ推進事業を実施。

高知県

高幡圏域

高知県高幡圏域における精神障害にも対応した 地域包括ケアシステムの構築に向けた取組み

高知県の高幡圏域では・・・

多職種（精神科医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士等）による訪問支援により、医療・保健・福祉サービスを包括的に提供し、入院という形にとらわれずに住み慣れた地域で暮らし続けられる事を目的にアウトリーチ推進事業を実施することから、精神障害者を地域全体で支える仕組みの構築の促進に取り組みます。

1 圏域の基礎情報

基本情報

市町村数 (R3年5月時点)		5	市町村	
人口 (R3年5月時点)		50,107	人	
精神科病院の数 (R2年6月時点)		1	病院	
精神科病床数 (R2年6月時点)		218	床	
入院精神障害者数 (R2年6月時点)	合計	187	人	
	3か月未満 (%:構成割合)	37	人	
		19.8	%	
	3か月以上1年未満 (%:構成割合)	53	人	
		28.3	%	
	1年以上 (%:構成割合)	97	人	
51.9		%		
	うち65歳未満	33	人	
	うち65歳以上	154	人	
退院率 (H29年6月時点)	入院後3か月時点	30.0	%	
	入院後6か月時点	70.0	%	
	入院後1年時点	80.0	%	
相談支援事業所数 (R3年5月時点)	基幹相談支援センター数	0	か所	
	一般相談支援事業所数	5	か所	
	特定相談支援事業所数	7	か所	
保健所数 (R3年1月時点)		1	か所	
(自立支援)協議会の開催頻度 (R2年度)	(自立支援)協議会の開催頻度	0	回/年	
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	有・無		
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況 (R3年3月時点)	障害保健福祉圏域	有・無	0 / 1	か所/障害圏域数
	市町村	有・無	2 / 5	か所/市町村数

2 精神障害にも対応した地域包括ケアの構築支援事業 実施前の課題・実施後の効果等

＜令和2年度までの成果・効果＞

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (R2年度当初)	実績値 (R2年度末)	具体的な成果・効果
①ピアサポーターの育成(啓発事業の実施)	1回	1回 11人	ピアサポーター養成に向けた啓発事業として、交流会を実施。 当事者11名が参加。

3 圏域の強みと課題

【特徴(強み)】

圏域における協議の場の設置(位置づけ)はできていないが、様々な圏域内での会等を通じて関係機関との「顔の見える関係」が構築されている。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築のための関係機関の役割が不明確であり、システム作りが十分にできていない。	保健・医療・福祉関係者による圏域ごとの協議の場を設置する。	行政	協議の場の設置、連絡調整、システム作り
		医療	協議の場への参加(事例提供等)
		福祉	協議の場への参加(事例提供等)
		その他関係機関・住民等	協議の場への参加(事例提供等)
地域移行支援、地域定着支援の実績が少ない。	アウトリーチ推進事業を実施する高幡圏域をモデル事業として、成功事例を作り、その結果を踏まえて、取り組みを他の圏域へ広げていく。	行政	事業実施に向けた調整、関係機関への協力要請
		医療	事業への参加、協力
		福祉	事業への参加、協力
		その他関係機関・住民等	事業への参加、協力

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和3年度末)	見込んでいる成果・効果
①協議の場の設置(協議の実施回数)	0	1	地域の課題の共有や保健・医療・福祉・住まいなどの支援体制の構築
②アウトリーチ推進事業の実績(人数)	0	5	成功事例の蓄積及び多圏域への事業展開。

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の特別に考える必要がある事項について

考えられる事項	想定される次期 (方向性判断の必要性が 考えられる次期)	実施する内容
新型コロナウイルス感染症の影響で、会議やアウトリーチ推進事業における訪問支援の中止が予想される。	県内での陽性患者発生～流行期、圏域内患者発生時～流行期	web会議やweb面談の検討。